

1 学校紹介

習志野市立第六中学校は、創立45年を迎えた。全校生徒487名、16学級で、伝統的に「挨拶」「清掃」「歌声」を大切にしている。また、緑に囲まれ、自然豊かな環境の中で、生徒たちは、意欲的に学習や部活動等に取り組んでいる。

2 研究主題

数学科における自己肯定感を高める授業づくり
～生きる数学の授業を求めて～

3 研究の概要

(1) 児童生徒の実態と課題

全体的に落ち着きがあり、素直に教師の指示に従い行動できるが、主体的に活動するという点においては、十分であるとはいえない。穏やかであるが、体力的、精神的なたくましさも高めていきたいところである。

学校生活アンケートによると、「自己評価・自己受容」に関する項目に否定的な回答や、「表現や意思表示を苦手とする」という回答が全体の4～5割程度となっている。

この課題解決に取り組み、自己肯定感を高め、「自分に自信をもち、自分の考えや思いを表現するとともに、他者のよさを認め、進んで関わり合う生徒」を育成することで学力向上につながる と考える。

(2) 学力向上のための取組

○全ての領域で、日常生活と関連した内容を取り入れ、生きる力を育むための授業改善、学力向上を図る。

○事象の数学的な解釈に基づき、問題解決の方法を説明する活動の充実のため以下の研究視点を もとに、授業を行う。

視点1 学習活動の工夫	①課題設定、課題提示 ②実生活と結びついた学習内容
視点2 学習過程の工夫	①基礎・基本（基礎学力や基本技能等）の定着
視点3 場面設定の工夫	①話し合い、教え合いの場
視点4 学習形態の工夫	①個人、班・グループ活動、一斉
視点5 評価の工夫	①自己評価の仕方（振り返り活動・まとめ、評価カード）
視点6 ICT機器活用の工夫	①全体でICT機器を活用する場面 ②個人でICT機器を活用する場面

*具体的な取組 【別添資料（指導案）】

- ・第1学年「変化と対応」「平面図形」「空間図形」
- ・第2学年「一次関数」
- ・第3学年「図形と相似」

【目標】

問題解決にあたって、既習経験を振り返り、それを使おうとする学び方や発見する「よさ」を味わわせる。また、進んで活用する態度を育成し、数学的活動の楽しさを感じさせる。

【数学科における活力ある生徒の姿】

- ・自ら考え、自ら進んで活動ができる。
- ・授業に意欲的で、話し合い活動、発表ができる。
- ・自分の意見を持ち、伝えられる。

【自己肯定感を高める工夫】

- ・解けたときの達成感を味わわせる。
- ・丸つけや机間指導等で、生徒の取組に対してあたたかい声をかける。
- ・仲間との学び合い認め合えるような活動を取り入れる。
- ・自分の意見や考えを積極的に表現することができる環境を整える。
- ・苦手なことに取り組もうとする意欲的な姿を積極的に評価する。

(3) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用

- ・授業中における生徒への学習支援
- ・個々のつまづきに対する指導・助言
- ・小テスト、練習問題等における採点
- ・教材作成の補助

4 成果

- ・授業者は、『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の各シートを活用したり、研究視点をもとに授業計画を立てたりすることで、授業の流れやポイントを押さえて、授業を行うことができた。
- ・生徒に粘り強く問題に取り組む姿勢が見られ、説明やまとめを自分の言葉で表すことが、少しずつだが抵抗なくできるようになってきている。

5 今後の課題

- ・評価と指導の一体化という観点から、振り返りカードの活用等を行っていきたい。
- ・全学年の共通の課題を減らしていけるよう、引き続き取り組んでいきたい。